【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成28年11月24日(2016.11.24)

【公表番号】特表2014-530074(P2014-530074A)
【公表日】平成26年11月17日(2014.11.17)
【年通号数】公開・登録公報2014-063
【出願番号】特願2014-535919(P2014-535919)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　5/0428　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　5/04　３１０Ｂ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成28年10月5日(2016.10.5)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２３】
図１に示す作業が、他の実施形態で、図示の順序とは異なる順序で生じてもよいことは、理解し、認識されたい。たとえば、１４で求められたゾーンをもとに、１２で着目領域を特定できる。これは、ゾーン内にあることが判断された不良チャネルによる悪影響がおよぶ場合がある、得られるマップのＲＯＩ（たとえば、低解像度領域に対応）を特定するよう実装可能である。たとえば、不良チャネルは、欠けたチャネル、体表面での不適切な電極装着、低い信号対雑音比、チャネルを不良チャネルまたは欠けたチャネルであると手作業で特定することあるいは、これらの要因または他の要因の組み合わせに起因することがある。本明細書で開示されているように、ゾーン内にある電極に対応するチャネルに対して計算された係数を評価することで、１つまたは２つ以上のこのような低解像度エリアを特定することができる。このような評価の特異度および／または感度は固定であってもよいし、ユーザーがプログラム可能にすることもできる。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００７９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７９】
評価部１６０は、コンピューター計算された係数（たとえば、その絶対値）を解析して、ＲＯＩデータ１６２を生成することが可能である。たとえば、評価部１６０は、特異度パラメーター１６４および感度パラメーター１６６を利用して、ＲＯＩ１６２をどのように求めるかを制御することが可能である。感度パラメーター１６６は、設定してコンピューター計算された変換行列係数の絶対値と比較できる、ユーザーがプログラム可能な閾値であってもよい。心臓の膜の特定のノードで、この係数が閾値を上回る場合、そのノードに対する電極を、そのようなノードの再構成されたデータに十分に貢献しているものとして特定できる。閾値を上回ることがある膜上の特定の点に、１つまたは２つ以上の係数があってもよい。たとえば、閾値を大きくすると、心臓の膜上の低解像度の領域を特定するための空間的な感度が高まる。それには、空間的な貢献が大きくなければならないからである。感度パラメーターは、低解像度のエリアを示すのに必要なコンピューター計算された係数に、最低数のヒットを設定できる。ヒット数を増やすと、低解像度のエリアを厳

密に特定するための全体としての特異度を高めることができる。このように、特定の検知システムに合わせて特異度と感度のパラメーターを適切に設定することで、心臓上の１つまたは２つ以上の低解像度の領域を求め、そのようにユーザーに通知するのに用いることが可能である。

【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００８０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００８０】

いくつかの例では、特異度パラメーター１６４および感度パラメーター１６６を、システム１５０（のみならず図３のシステム１００）に合わせて（たとえば、デフォルト値に）あらかじめプログラムして、再構成時にベストの不良チャネルがアーチファクトを生じる傾向にある状況を判断することが可能である。この情報は、通知または警告としてユーザーに提示可能である。こうして、たとえば、検知力を上げるよう電極を調節またはＲＯＩに対する電極の貢献内容を変化させることで、補正作業をするための機会を与える。補正作業を行った後、システム１５０は、たとえばユーザー入力に応答して、係数を再度コンピューター計算し、１つまたは２つ以上の低解像度の領域が依然として存在するか否かを判断することができる。いくつかの例では、ユーザーは、特定の解析にとってユーザーが重要であるとみなした低解像度の領域がＲＯＩの外にあるなどのときに、補正作業を行わないと決めることができる。あるいはまたはそれに加えて、ユーザーは、感度または特異度のパラメーターのうち１つまたは２つ以上を調整して、特定された検知ゾーン（たとえば、不良チャネル）が逆解法に対しておよぼす影響を再評価することもできる。評価部による追加の解析には、このような領域間の重なりを警告または他の通知の生成につなげられるように、ユーザーが選択したＲＯＩに鑑みて、コンピューター計算した低解像度の領域を比較することを含んでもよい。